



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

芙蓉総合リース株式会社

トランジション・ファイナンス・フレームワーク

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2024 年 9 月 30 日

Ref. Nr.: PRJN- 804696-2024-AST-JPN-01

目次

報告書サマリー	3
Ⅰ. まえがき	8
Ⅱ. スcopeと目的	13
Ⅲ. 芙蓉総合リースの責任と DNV の責任	15
Ⅳ. DNV 意見の基礎	16
Ⅴ. 評価作業	18
Ⅵ. 観察結果と DNV の意見	19
スケジュール-1 芙蓉総合リース Enablerとしてのトランジション・ファイナンス適合性評価プロセス（フレームワークより引用）	28
スケジュール-2 Enablerとしてのグリーンローン原則（資金用途特定型トランジション・ローン）適格性評価手順	29

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2024年9月30日	初版発行

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Fundraiser to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

報告書サマリー

芙蓉総合リース株式会社（以下、芙蓉総合リース、又は Enabler^{注1}）は、社会の変化の兆しを捉えた新たなビジネスを構築し、お客様の課題解決をサポートすることで、社会価値と企業価値の創出を目指しています。

芙蓉総合リースは、2022 年度よりスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value2026」では、事業による社会課題の解決を通じて企業価値の向上を共に実現するという CSV（Creating Shared Value）の考え方を全面的に取り入れました。社会課題の 1 つである脱炭素化に向け、リース事業としての削減貢献は重要であることから、お客様のトランジションに資する投資を支援しています。トランジション・ファイナンスによる調達、クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針における他社の脱炭素に向けたトランジションを可能にするための活動（投融資を含む）の原資を調達する主体（Enabler）として行うものであり、リースファイナンスの手法を通じて、お客様のトランジション戦略の推進を支援することで、脱炭素社会の実現を目指すため、「芙蓉総合リース株式会社 トランジション・ファイナンス・フレームワーク」（以下、フレームワーク）を策定しました。

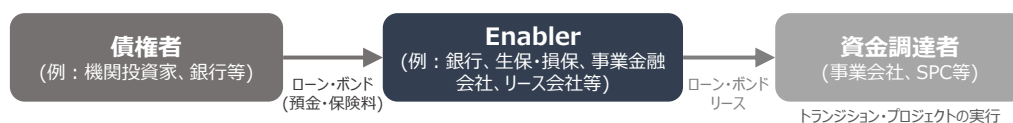
フレームワークは、芙蓉総合リースが Enabler として下記のファイナンスを実行する際に必要な要素を含む包括的なフレームワークとして構成されています。

- トランジション・ファイナンス（ローン又はエクイティ^{注2}）

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社（以下、DNV）は外部レビュー機関として、フレームワークの適格性を評価しました。具体的には、DNV は以下を中心とした枠組み（原則やガイドライン等）を適用・参照^{注2}し、芙蓉総合リースが、資金調達者（融資先）の、トランジション・ファイナンス（適格プロジェクト）の対象となるプロジェクトや事業活動がトランジション戦略の実現に資することを適切に評価・判断するための、芙蓉総合リースの計画や体制についての適格性評価を行いました。

- クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック（CTFH）国際資本市場協会（ICMA）、2023
- クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針（CTFBG）金融庁、経済産業省、環境省、2021
- グリーンローン原則（GLP）ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）他、2023
- グリーンローンガイドライン（GLGL）環境省、2022

上記の枠組みで示される共通要素に対し、芙蓉総合リースによる資金調達者の適格性評価プロセスを評価した結果の概要を次ページに示します。



※経済産業省の資料より抜粋編集

注1. Enabler：本報告書では、「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」(ICMA)の関連質疑^{*1}や、「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」(金融庁、経産省、環境省)^{*2}で示される下記下線部のトランジション・ファイナンスの主体(投融資を含む原資調達の主体)を Enabler として定義します。

“(トランジション)プロジェクトに融資を行う金融機関”^{*1}

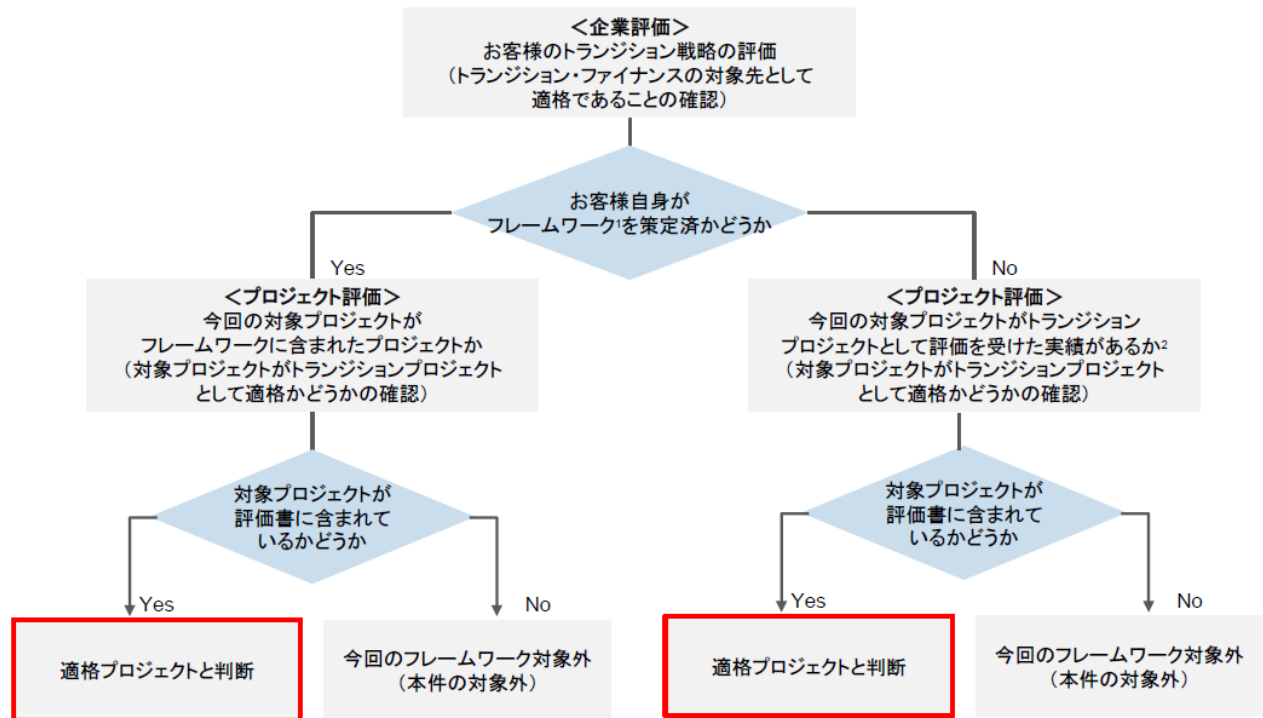
“自社の製品・サービスを通じて、他者のトランジション戦略の実現を可能にする取組を計画している主体も対象となる。例えば、金融機関がそのような活動を行う場合、自身の戦略を説明するのだけでなく、資金供給者（*上図の Enabler に相当）は対象となるプロジェクトや活動が資金調達者の戦略にいかに関与するかを説明すべきである。”^{*2}

本報告書では、金融機関が資金供給者(Enabler)として、対象となる対象プロジェクトや活動が、資金調達者の適切なトランジション戦略の実現に資するものであることを評価するための計画や体制についての適格性評価を行います。

注2. エクイティはローンと異なる為、GLP の 4 つの要求事項（*GLGL を含む）と CTFH、CTFBG の共通の 4 つの要素を参照して適格性を評価。

<Enablerとしての資金調達者(融資先)のCTF適合性評価プロセス評価結果>

DNVは芙蓉総合リースから提供された資料及び情報から、芙蓉総合リースがEnablerとして資金調達者(融資先)のCTF適合性評価プロセス(以下、適合性評価プロセス)をフレームワークとして定めており、そのフレームワークが適格であることを確認しました。このフレームワークに基づく適合性評価プロセスは、トランジション・ファイナンスの資金調達者の取組について、公平、客観性が担保できるものとして外部評価機関による評価を取得済みのフレームワーク又は評価書を活用するものです。



注1: 第三者評価機関による評価を取得している「トランジション・ファイナンスフレームワーク」等
注2: 第三者評価機関が評価した「トランジションボンド/ローン」等

図-1 CTF 適合性評価プロセス (選定プロセス)

以下に示す Enabler CTF-1~CTF-4 は、CTFH、CTFBG の共通の 4 つの要素に対する適合性評価プロセスの概要です。DNV は、芙蓉総合リースへのアセスメントを通じて、適合性評価プロセス(フレームワーク)が CTFH、CTFBG と整合することを確認しました。

Enabler CTF-1. 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス :

クライメート・トランジション戦略 : 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じて、資金調達者のトランジション戦略が、パリ協定の目標に整合し、科学的根拠を有した具体的な計画があること、またその計画に透明性があり、信頼性・実現性の高い目標を定めていることを確認します。また、芙蓉総合リースは、資金調達者のトランジション戦略の実行において、GHG 削減の主な手段や SDGs への貢献についても考慮します。

ガバナンス : 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じて、資金調達者のトランジション戦略が、どのような組織機関・会議体により管理・実行されるプロセスを有しているかについて確認します。資金調達者が当初計画したトランジション戦略が更新される場合、芙蓉総合リース及び資金調達者は、変更内容とその理由を利害関係者へ説明します。

Enabler CTF-2. ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度) :

環境面のマテリアリティ : 芙蓉総合リースは、資金調達者の GHG 削減への取組が、芙蓉総合リースのスコープ 3 として影響を及ぼすことから、資金調達者のマテリアリティ選定プロセスにおいて、ビジネス特性上環境面の重要となる中核的な事業活動の変革に資することを確認します。

シナリオの考慮 : 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じ、資金調達者のトランジション戦略が、科学的根拠を有するどのようなシナリオに基づくかについて確認すると共に、資金使途対象候補となる対象プロジェクトに影響を及ぼす可能性のある将来のシナリオを考慮していくことを確認します。

Enabler CTF-3. 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む) :

科学的根拠のある戦略、目標、経路 : 芙蓉総合リースは、フレームワーク及び評価書を通じて、資金調達者が設定する定量化された目標と経路が、パリ協定の目標実現に必要な科学的根拠のある軌道を参照して設定されていることを確認します。また、資金調達者の GHG 排出量の削減目標が GHG プロトコルをカバーしている事、または事業特性、技術開発や削減の進捗のタイムラインに応じて、その他の適切な指標や目標等により設定されていることを確認します。

Enabler CTF-4. 実施の透明性 :

投資計画 : 芙蓉総合リースは、資金調達者のトランジション戦略実現のための投資計画全体についてフレームワーク又は外部評価機関の評価書を活用して確認します。なお、戦略実現のためのタイムラインが長期に渡る場合や、共通技術開発等、自社以外の要因により投資計画全体の設定が困難な場合には、当該プロジェクトを含む短期的な投資計画について、実務的に可能な範囲にて確認します。

成果とインパクト : 芙蓉総合リースは、充当対象となるプロジェクトにより想定される気候関連等への成果とインパクトが資金調達者によって明確に示されること(直接的/間接的、定量/定性を問わない)を確認します。

ファイナンスの実行・管理 : 芙蓉総合リースは、資金調達者が投融資対象となる活動に対する充当計画や資金調達後の実施状況について、資金使途特定型のトランジション・ファイナンスとして実行・管理する適切な計画があることを事前に評価すると共に、資金調達後もファイナンス期間を通じて少なくとも年に 1 回、ファイナンスの実行・管理が適切に行われている状況について確認する予定です。

<資金用途特定型トランジション・ローン 適格性評価結果>

DNV は芙蓉総合リースから提供された資料及び情報から、以下を確認しました。以下に示す TL-1～TL-4 は、資金用途特定型トランジション・ローン(TL)の管理に必要な 4 つの要素(GLP、GLGL 参照)に対する観察結果と DNV の意見です。

TL-1. 調達資金の用途 :

リースファイナンス : 芙蓉総合リースは、トランジション・ファイナンスによる手取り金を適格プロジェクトに対する新規および/または既存のリースファイナンスに充当します。ただし、一定の要件を充足する場合には、お客さまの対象プロジェクトに対する新規および/または既存の投資に充当します。既存のリースファイナンスまたは既存の投資に充当する場合は、借入日から遡って 36 カ月以内に実施した支出に限ります。

リースバックファイナンス : 芙蓉総合リースは、適格性評価プロセスに基づき、一定の要件を充足する場合(例 : 資金調達者がリースバックにより芙蓉総合リースから得た資金を新たに適格なトランジションプロジェクトを実行する等)、トランジション・ファイナンスを、資金調達者の対象プロジェクトに対する新規及び/又は既存の投資に充当するための資金として供給します。

芙蓉総合リースは、エクイティによる調達資金であっても上記と同様の管理を行います。

また、芙蓉総合リースは調達資金の用途について、除外クライテリアを設けており、除外クライテリアに関連するプロジェクトへは充当しないこととしています。

TL-2. プロジェクトの評価と選定のプロセス :

芙蓉総合リースは、Enabler として資金充当するにあたり、Enabler CTF-1～4 及び TL-1～4 を満たすことを確実にするための詳細な内部プロセスを有しています。この内部プロセスは、大きく 4 つの STEP に分類されています。概要は以下の通りです。

- STEP1 :** プロジェクト選定_ビジネス部門 (営業部門および営業支援部門) による資金調達者/対象プロジェクトの財務評価及び与信判断。
- STEP2 :** トランジション評価_資金調達者もしくは個別プロジェクトのトランジション・ファイナンス適合性について Enabler CTF-1～CTF-4 に基づき経営企画部 CSV 推進室による評価。
- STEP3 :** プロジェクト適格性の確認_必要に応じて外部評価機関による評価書 (外部評価機関による、適合に関する書面) を受領。
- STEP4 :** プロジェクト決定_決裁権限に基づき芙蓉総合リースとして最終的なトランジション・ファイナンス (適格プロジェクト)として決定。

TL-3. 調達資金の管理 :

リースファイナンス : 芙蓉総合リースは、調達資金をあらかじめ選定された個別のプロジェクトに全額紐付けています。調達資金と資産の紐付け、調達資金の充当状況は、財務部門、もしくは資金調達の主体が SPC の場合は SPC を管掌するビジネス部門または財務部門にて追跡・管理します。

リースバックファイナンス : 芙蓉総合リースは、資金調達者がリースバックにより得た資金を適格プロジェクトに充当することを確認します。



DNV

何れの場合も調達資金の追跡管理は定期的実施される内部監査の監査項目として組み込まれるなど、適切な内部統制を受ける計画です。

また、調達資金の充当までの間は、調達資金は現金または現金同等物にて管理します。資金充当完了後も、資金使途の対象となるプロジェクトに当初の想定と異なる事象が発生した場合、当該事象及び未充当資金の発生状況を確認します。

芙蓉総合リースは、エクイティによる調達資金であっても上記と同様の管理を行います。

TL-4. レポートニング :

芙蓉総合リースは、資金充当状況レポートニング及びインパクト・レポートニングを、調達資金の全額が適格プロジェクトに充当されるまで、守秘義務の観点も考慮した上で可能な限りウェブサイトにて開示（ローンの場合は貸付人のみに開示）します。なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、調達資金の充当後に計画に大きな影響を及ぼす状況の変化が生じた場合は、ウェブサイトにて速やかに開示（ローンの場合は貸付人のみに開示）する予定です。

DNV は、フレームワークをはじめとする芙蓉総合リースより提供された関連文書・情報に基づく評価により、芙蓉総合リースが Enabler としてトランジション・ファイナンスを通じて実行するリースを推進するために確立したフレームワークが、CTFH、CTFBG 及び GLP、GLGL で要求される基準を満たし、適格性を有していることを確認しました。

I. まえがき

i. 芙蓉総合リースについて

芙蓉リースグループは、社会の変化の兆しを捉えた新たなビジネスを構築し、お客様の課題解決をサポートすることで、社会価値と企業価値の創出を目指しています。コーポレートスローガン『前例のない場所へ。』を掲げ、これまでの行動や経験を振り返った上で「ミッション」「ビジョン」「バリュー」を明文化（図-2 参照）しています。

Group Mission（使命／存在意義）

事業の領域拡大と更なる進化による新たな価値創造に果敢に挑戦し、豊かな社会の実現と持続的な成長に貢献する。

Group Vision（実現したい姿）

- ・ 変化の兆しを捉え、その先の社会課題の解決に挑戦するグループ
- ・ お客様に信頼され、お客様と共に価値を創造するグループ
- ・ 社員の挑戦と成長を後押しし、社員と共に成長するグループ

Value（行動指針）

前例のない場所へ。（芙蓉総合リースの Value は以下の通り）

- ・ リースとはモノを貸すことではない。発想を、頭脳を、驚きを貸すことだ。
- ・ 無理難題こそ歓迎したい。新たなビジネスはそこからしか生まれない。
- ・ 期待に応えるのは義務である。期待を超えてこそ仕事である。
- ・ 共に成功するのはたやすい。苦しい時も向き合えるのがパートナーである。
- ・ 私たちから大胆になる。リースにできることを広げてゆく。



図-2 芙蓉リースグループ ミッション・ビジョン・バリュー

芙蓉総合リースは、リース及び割賦・ファイナンス事業を通じて、お客様のさまざまな経営課題に向き合っています。リース事業で培ったノウハウやネットワークを活かしながら、サービスの提供を継続し続ける中で、時代の要請に応えるべく、不動産リース、再生可能エネルギーの発電事業、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サービスへと事業領域を拡大させています。

ii. 芙蓉総合リースのサステナビリティへの取組み

芙蓉総合リースは、様々な領域の事業を通じて「環境」と「社会とひと」分野の社会課題を解決しつつ、持続的な利益成長を達成するのが、CSV（Creating Shared Value：企業価値と社会価値の同時実現）経営を重視する芙蓉リースグループの価値創造プロセスと位置付けています。芙蓉総合リースでは、このプロセスの下で 2030 年のありたい姿を目指すために、中期経営計画「Fuyo Shared Value2026」（図-3 参照）では芙蓉リースグループが保有している複数の事業領域から選択した「成長ドライバー」への経営資源の集中投下、人材投資・DX といった「持続的な価値創造を支える組織・体制づくり」、「お客様とのパートナーシップの構築」に重点的に取り組んでいます。



図-3 Fuyo Shared Value2026

DNV

芙蓉総合リースは、価値創造プロセスの重要な要素である「環境」「社会とひと」「持続的な価値創造を支える組織・体制」「パートナーシップを通じた価値創造」に関する重要課題を 2030 年にありたい姿からバックキャストし、中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」で取り組むべき 8 つの重要課題（マテリアリティ）（図-4 参照）を特定し、実現に向けての取り組みを加速させていきます。



図-4 8 つの重要課題（マテリアリティ）と SDGs

芙蓉総合リースが属する芙蓉リースグループの CSV やサステナビリティをグループ横断的に推進するため、2020 年 10 月に「CSV 推進委員会」（図-5 参照）を設立しました。CSV 推進委員会は主要なコーポレート部門の部長をはじめ、各事業ドメインを管掌するビジネス部門の部長を構成員としており、委員会で審議・報告された内容は経営会議に付議され、承認を経て戦略に反映されます。なお、グループ全体の CSV に係る方針及び推進状況は取締役会においても年に 1 回以上の報告を行い、実効性を高めています。

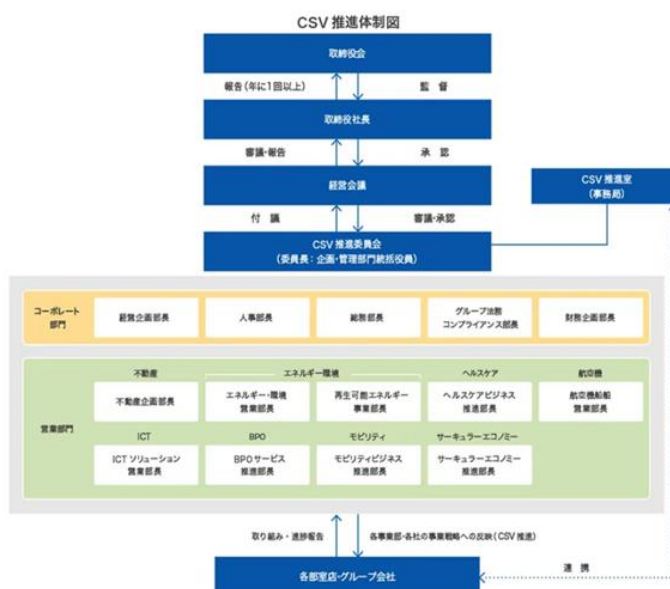


図-5 サステナビリティ推進体制

iii. 芙蓉総合リースの環境への取り組み

芙蓉総合リースでは、芙蓉リースグループとして、持続可能な社会の実現に向けて、常に地球環境に配慮した事業活動を実践し、以下の環境方針（図-6 参照）に沿って環境問題への取り組みを推進していきます。

環境方針

1. 環境保全に寄与する商品・サービスの提供

グループ各社がそれぞれの事業特性を活かし、環境保全に寄与する商品・サービスの提供に努めます。

2. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動に伴う環境負荷を認識し、省資源・省エネルギー活動およびグリーン購入に努めます。

3. 循環型社会構築への寄与

リース終了物件などに対するリユース、リサイクルを推進し、廃棄物の発生抑制と適正処分に努めます。

4. 環境関連法令などの順守

環境に関する法令や、芙蓉リースグループが同意した協定などを順守します。

5. 環境マネジメントシステムの確立

環境マネジメントシステムの継続的な改善を図り、環境目標を設定して、気候変動への対応、環境汚染の予防、並びに生物多様性の保全に努めます。

図-6 芙蓉リースグループ環境方針

iv. 芙蓉総合リースの気候変動への取り組み

芙蓉総合リースは、芙蓉リースグループとして、温室効果ガスの排出量削減に向けては、まず自らが主体的に取り組みを行う必要があると考え、2018年に国内の総合リース会社として初めて「RE100」に参加すると共に、2021年にはカーボンニュートラルを2030年に達成することを宣言しました。さらに、芙蓉リースグループでは、お客様の再エネ・省エネ設備・機器等の導入・置換によるCO₂排出削減効果を、リース事業が創出できる重要な削減貢献であると同時に、脱炭素社会への移行に伴う重要な事業機会と位置付けて取り組んでいます。

1) 芙蓉リースグループの脱炭素化

2030年までにRE100を達成し、カーボンニュートラル（Scope1, 2）を実現することを中長期環境目標として掲げています。

また、芙蓉リースグループ各拠点で、省エネルギーやエネルギー効率化に向けた取り組みを推進しています。具体的には、冷暖房設備の適切な温度設定や節電の呼びかけ、高効率照明への切り替えを行っています。また、安全で燃料消費の少ないエコドライブの推進や社員への啓発活動等を通じて、社用車の燃料消費量削減（電気自動車の導入による化石燃料の使用量削減等）に取り組んでいます。

2) お客様・社会の脱炭素化

① 商品・サービスによる省エネ対策

省エネ機器メーカーや建設会社など様々な分野の企業とパートナーシップを組み、ESCO 事業をはじめとした多様なスキームで、お客様の省エネルギー活動をサポートしています。

② 再生可能エネルギーの普及

芙蓉総合リースは、自社の発電事業で蓄積したノウハウを活かし、大規模な発電事業への参画や、グリーン電力供給（PPA）サービス（お客様の施設屋根や遊休地へ太陽光発電システムを設置し、発電したグリーン電力をお客様へ直接供給するサービス）など、お客様に最適な発電設備の導入プランを各種ファイナンススキームと組み合わせることで、再生可能エネルギーの普及推進に貢献しています。

③ CO₂削減貢献

芙蓉リースグループとして、ファイナンスを通じて脱炭素化に取り組む企業や団体をサポートするため、「芙蓉再エネ 100 宣言・サポートプログラム」「芙蓉 ゼロカーボンシティ・サポートプログラム」という 2 つのプログラムを提供しています。

v. 芙蓉総合リースのトランジションへの取組み

芙蓉総合リースは、リース事業を通じて提供されるトランジション・ファイナンスが、お客様の再エネ・省エネ設備・機器等の導入・置換による CO₂排出削減効果を脱炭素社会への移行に伴う重要な事業機会と位置付けて取り組んでいます。

vi. トランジション・ファイナンス・フレームワークについて

芙蓉総合リースは、お客様・社会の脱炭素化に向け、リース事業としての削減貢献は重要であることから当社はお客様のトランジションに資する投資を支援しています。トランジション・ファイナンスによる調達、クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針における他社の脱炭素に向けたトランジションを可能にするための活動（投融資を含む）の原資を調達する主体（Enabler）として行うものであり、リースファイナンスの手法を通じて、お客様のトランジション戦略の推進を支援することで、脱炭素社会の実現を目指すため「芙蓉総合リース株式会社 トランジション・ファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を策定しています。

フレームワークは、芙蓉総合リースがEnabler としてトランジション・ファイナンス実行に必要な要素を含む包括的なフレームワークとして構成されています。

このフレームワークが具体的に参照した枠組みについては後述 II 項に示す「適用される基準」に記載されています。

資金調達者名称 : 芙蓉総合リース株式会社

フレームワーク名 : トランジション・ファイナンス・フレームワーク

外部レビュー機関名 : DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日 : 2024 年 9 月 30 日



II. スコープと目的

芙蓉総合リースは DNV にフレームワークの適格性評価を委託しています。DNV におけるフレームワーク評価の目的は、芙蓉総合リースが、Enabler として資金調達者に対して実施する CTFH、CTFBG への適合性評価プロセスの妥当性、また、個別ファイナンスの実行・管理に必要な GLP、GLGL 及び他に関連する基準もしくはガイドライン(下表参照)に合致していることを確認するための評価を実施し、このフレームワークの適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンの提供に際し、芙蓉総合リースとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、個別のトランジション・ファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投融資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

(1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目について評価し、GLP、GLGL の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

* レビューのスコープは資金用途特定型のトランジション・ファイナンスに対する評価部分として適用する。

* Enabler として資金調達者に対する CTFH、CTFBG への適合性評価プロセスの妥当性についてもレビューのスコープに含める。

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンド・パーティ・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

(3)適用又は参照される基準

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル ^{*3}
1.	クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック(CTFH) ^{*1}	国際資本市場協会(ICMA)、2023	適用/参照 ^{注2}
2.	クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針(CTFBG) ^{*1}	金融庁、経済産業省、環境省、2021	適用/参照 ^{注2}
3.	グリーンローン原則(GLP) ^{*2}	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他、2023	適用/参照 ^{注2}
4.	グリーンローンガイドライン(GLGL) ^{*2}	環境省、2022	適用/参照 ^{注2}

*1 クライメート・トランジション(移行)は、主に発行体(資金調達者)における気候変動関連のコミットメントと実践に関する信頼性(credibility)に着目した概念である(CTFH、CTFBGより引用)。Enabler自身に上記コミットメントと実践について求めるものではありません。

*2 トランジションの4要素を満たし、資金用途を特定したボンド/ローンとして実行する場合に満たすべき4つの核となる要素(調達資金の用途、プロジェクトの評価と選定プロセス、調達資金の管理、レポート等)への適合性を確認するもの。(CTFBGより引用、編集)

*3 適用：芙蓉総合リースがEnablerとしてトランジションファイナンスを実行する際に必要な各原則やガイドラインの要素全てに対して適合性を有する又は適合性を判断するための適合性評価プロセスを有していることを評価。

注2. エクイティはローンと異なる為、GLPの4つの要求事項(*GLGLを含む)とCTFH、CTFBGの共通の4つの要素を参照して適合性を評価。



Ⅲ. 芙蓉総合リースの責任と DNV の責任

芙蓉総合リースは、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて芙蓉総合リース及び利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、芙蓉総合リースから提供された情報及び事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産や組織のいかなる側面に対しても責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、芙蓉総合リースの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV 意見の基礎

DNV は、芙蓉総合リースにとってより柔軟な Enabler としてのトランジション・ファイナンス適格性評価手順（以下、「手順」）を適用するために、CTFH、CTFBG、GLP、GLGL の要求事項を考慮した手順を作成しました。スケジュール-2~3 を参照してください。この手順は、芙蓉総合リースが Enabler として実施する CTFH、CTFBG、GLP、GLGL に基づく資金用途特定型のトランジション・ファイナンスに適用可能です。

DNV はこの手順に基づく評価により、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンを提供します。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的なクライメート・トランジション・ファイナンスの原則は、以下の通りです。

「クライメート・トランジション・ファイナンスが透明性と信頼性を持って実行されるために必要な投資の機会を提供する」

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのトランジション・ファイナンスに対する基準は、以下（1）及び（2）のそれぞれ 4 つの共通要素（開示要素）にグループ分けされます。また、DNV は、芙蓉総合リースが Enabler として資金調達者のトランジション・ファイナンスへの取組を評価する際に本（1）及び（2）の要素について、適切な適合性評価プロセスを有しているかをレビューします。

(1) Enabler としての資金調達者のトランジション・ファイナンス適合性評価 (CTFH 及び CTFBG の 4 つの共通要素)

要素1. 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス

資金調達の目的は、資金調達者の気候変動戦略の実現を可能にすることが示されるべきです。

要素2. ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度)

計画されたクライメート移行経路は資金調達者のビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティに関連付けられるべきです。

要素3. 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む)

資金調達者のクライメート・トランジション戦略は科学的根拠を参照すべきです。

要素4. 実施の透明性

資金調達者のクライメート・トランジション戦略達成のための資金調達を目的とした資金調達方法に関連する市場関係者とのコミュニケーションでは、基礎となる投資計画(投資プログラム)の透明性を提供すべきです。

(2) 資金用途特定型のトランジション・ファイナンスとして適合性評価 (GLP、GLGLの4つの共通要素)

要素1. 調達資金の用途

調達資金の用途の基準は、資金用途を特定したトランジション・ファイナンスの Enabler 及び/又は資金調達者を通じトランジション・ファイナンスにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。

要素2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクトの評価及び選定の基準は、トランジション・ファイナンスの Enabler 及び/又は資金調達者が、トランジション・ファイナンスによる調達資金を用途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。

要素3. 調達資金の管理

調達資金の管理の基準は、トランジション・ファイナンスが Enabler 及び/又は資金調達者によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならない、という要求事項によって定められています。

要素4. レポーティング

レポーティングの基準は、Enabler はローンの貸し手に対して、又は、資金調達者は Enabler に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、Enabler によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

i. トランジション・ファイナンス実行前アセスメント

- この評価に資する上述及び本評価のスケジュール-2～3に記載されている、Enabler によるトランジション・ファイナンスへの適用を目的とした Enabler 特有の評価手順の作成。
- このトランジション・ファイナンスに関して Enabler より提供された根拠文書の評価及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- Enabler との協議及び関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。
- 必要な場合、Enabler が実施する資金調達者のトランジション・ファイナンス評価結果に対する適合性評価書の作成

ii. トランジション・ファイナンス実行後アセスメント（*この報告書には含まれません）

- Enabler へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 現地調査および検査（必要な場合）
- 実行後の観察結果の文書作成

VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

DNV は、芙蓉総合リースが Enabler として資金調達者のトランジション・ファイナンスへの取組みを評価する際に下記の要素について、適切な適合性評価プロセスを有しているかをレビューしました。なお、資金調達者のトランジション・ファイナンスは、あらかじめ外部評価機関の評価を受けたファイナンスに限定されることを DNV は確認しました。

この適合性評価プロセス（図-1 参照）は、各種 CTF に関するガイドライン等の枠組みで定めるトランジションに対する取組を外部評価機関の評価書を活用し、予め定められた基準に基づき、最終的にトランジション・ファイナンス対象としての適格性を判断するための内部プロセスとして開発されたものです。

以下に示す Enabler CTF-1～CTF-4 は、CTFH、CTFBG の共通の 4 つの要素に対する適合性評価プロセスの概要です。

DNV は、芙蓉総合リースへのアセスメントを通じて、適合性評価プロセスが CTFH、CTFBG と整合することを確認しました。

CTF 及び資金用途特定型トランジション・ファイナンスに対する適合性評価プロセスの概要は、VI(2)の TL-2 で説明されています。

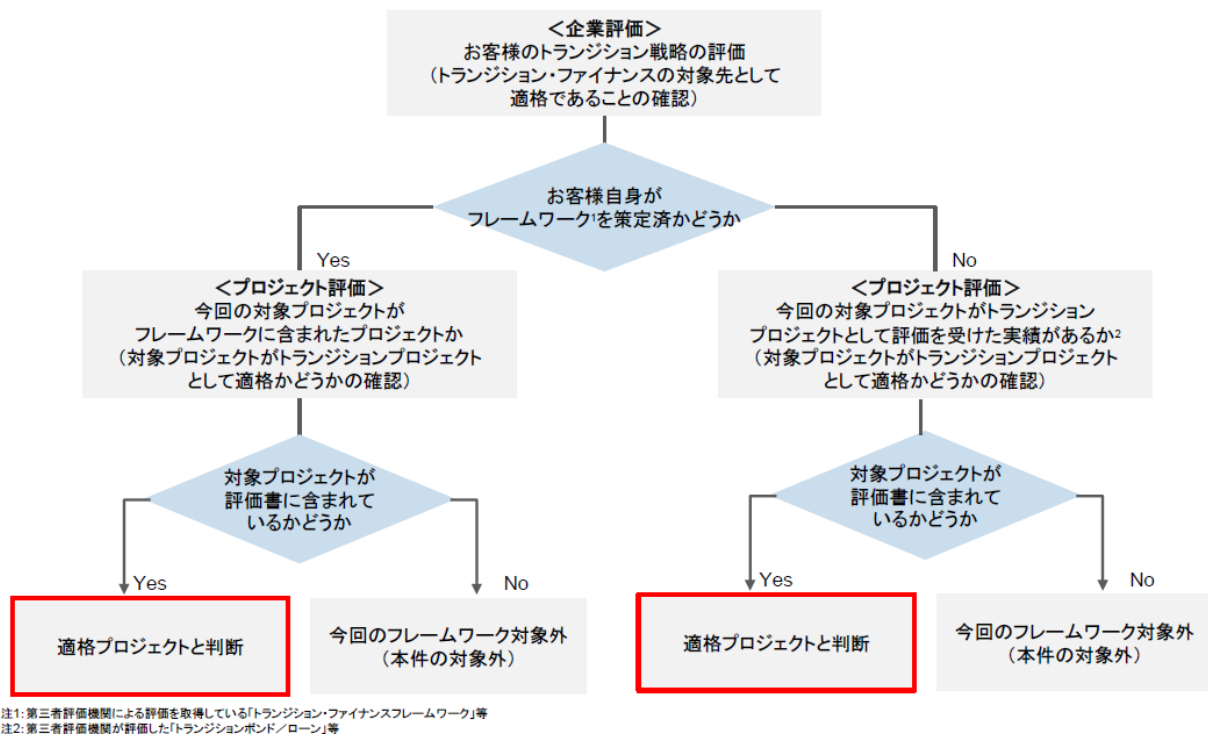


図-1（再掲）CTF 適合性評価プロセス（選定プロセス）

**(1) CTFH、CTFBG の共通の 4 つの要素(開示要素)に対する
Enabler としての適合性評価プロセスの妥当性と DNV の意見**

Enabler CTF-1. 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス :

- **クライメート・トランジション戦略 :** 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じて、資金調達者のトランジション戦略が、パリ協定の目標に整合し、科学的根拠を有した具体的な計画があること、またその計画に透明性があり、信頼性・実現性の高い目標を定めていることを確認します。また、芙蓉総合リースは、資金調達者のトランジション戦略の実行において、GHG 削減の主な手段や SDGs への貢献についても考慮します。
- **ガバナンス :** 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じて、調達者のトランジション戦略が、どのような組織機関・会議体により管理・実行されるプロセスを有しているかについて確認します。資金調達者が当初計画したトランジション戦略が更新される場合、芙蓉総合リース及び資金調達者は、変更内容とその理由を利害関係者へ説明します。

Enabler CTF-2. ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度) :

- **環境面のマテリアリティ :** 芙蓉総合リースは、資金調達者の GHG 削減への取組が、芙蓉総合リースのスコップ 3 として影響を及ぼすことから、資金調達者のマテリアリティ選定プロセスにおいて、ビジネス特性上環境面の重要となる中核的な事業活動の変革に資することを確認します。
- **シナリオの考慮 :** 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じ、資金調達者のトランジション戦略が、科学的根拠を有するどのようなシナリオに基づくかについて確認すると共に、資金使途対象候補となる対象プロジェクトに影響を及ぼす可能性のある将来のシナリオを考慮していくことを確認します。

Enabler CTF-3. 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む) :

- **科学的根拠のある戦略、目標、経路 :** 芙蓉総合リースは、フレームワーク又は評価書を通じて、資金調達者が設定する定量化された目標と経路が、パリ協定の目標実現に必要な科学的根拠のある軌道を参照して設定されていることを確認します。また、資金調達者の GHG 排出量の削減目標が GHG プロトコルをカバーしている事、または事業特性、技術開発や削減の進捗のタイムラインに応じて、その他の適切な指標や目標等により設定されていることを確認します。

Enabler CTF-4. 実施の透明性 :

- **投資計画 :** 芙蓉総合リースは、資金調達者のトランジション戦略実現のための投資計画全体についてフレームワーク又は外部評価機関の評価書を活用して確認します。なお、戦略実現のためのタイムラインが長期に渡る場合や、共通技術開発等、自社以外の要因により投資計画全体の設定が困難な場合には、当該プロジェクトを含む短期的な投資計画について、実務的に可能な範囲にて確認します。
- **成果とインパクト :** 芙蓉総合リースは、充当対象となるプロジェクトにより想定される気候関連等への成果とインパクトが資金調達者によって明確に示されること(直接的/間接的、定量/定性を問わない)を確認します。
- **ファイナンスの実行・管理 :** 芙蓉総合リースは、資金調達者が投融資対象となる活動に対する充当計画や資金調達後の実施状況について、資金使途特定型のトランジション・ファイナンスとして実行・管理する適切な計画があることを事前に評価すると共に、資金調達後もファイナンス期間を通じて少なくとも年に 1 回、ファイナンスの実行・管理が適切に行われている状況について確認する予定です。

(2)資金使途特定型トランジション・ローン(TL)の管理に必要な4つの要素(GLP、GLGL 参照)
 に対する観察結果と DNV の意見

TL-1. 調達資金の使途：

- **リースファイナンス：**芙蓉総合リースは、トランジション・ファイナンスによる手取り金を適格プロジェクトに対する新規および/または既存のリースファイナンスに充当します。ただし、一定の要件を充足する場合には、お客さまの対象プロジェクトに対する新規および/または既存の投資に充当します。既存のリースファイナンスまたは既存の投資に充当する場合は、借入日から遡って 36 カ月以内に実施した支出に限ります。
- **リースバックファイナンス：**芙蓉総合リースは、適格性評価プロセスに基づき、一定の要件を充足する場合(例：資金調達者がリースバックにより芙蓉総合リースから得た資金を新たに適格なトランジションプロジェクトを実行する等)、トランジション・ファイナンスを、資金調達者の対象プロジェクトに対する新規及び/又は既存の投資に充当するための資金として供給します。
- 芙蓉総合リースは調達資金（エクイティも含まれる）ならびに最終的な資金調達者がリースバックにより得た資金について、除外クライテリアを設定しており、以下に関連するプロジェクトへは充当しないこととしています。
 - 所在国の関連法令を順守しない不当な取引
 - 贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
 - 人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

TL-2. プロジェクトの評価と選定のプロセス：

- 芙蓉総合リースは、Enabler として資金充当するにあたり、Enabler CTF-1~4 及び TL-1~4 を満たすことを確実にするための詳細な内部プロセスを有しています。この内部プロセスは、大きく 4 つの STEP に分類されています。概要は以下の通りです。

STEP1：プロジェクト選定_ビジネス部門（営業部門および営業支援部門）による資金調達者/対象プロジェクトの財務評価及び与信判断。

STEP2：トランジション評価_資金調達者もしくは個別プロジェクトのトランジション・ファイナンス適合性について Enabler CTF-1~CTF-4 に基づき経営企画部 CSV 推進室による評価。

STEP3：プロジェクト適格性の確認_必要に応じて外部評価機関による評価書（外部評価機関による、適合に関する書面）を受領。

STEP4：プロジェクト決定_決裁権限に基づき芙蓉総合リースとして最終的なトランジション・ファイナンス(適格プロジェクト)として決定。

評価及び選定 *以下適宜グリーンをトランジション、資金調達者を Enabler として読み替える場合があります。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ☒ 資金調達者の環境貢献目標の達成に合致していること | <ul style="list-style-type: none"> ☒ プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
|--|--|



DNV

- グリーン・ファイナンスの調達資金の使途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること
- 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること(参照可能な基準の存在するグリーンプロジェクト)
- プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること
- その他(具体的に記載) :

責任に関する情報及び説明責任

- 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準
- 組織内部での評価
- その他(具体的に記載) :

参考表 芙蓉総合リース：プロジェクトの評価及び選定プロセス (フレームワークより引用)

適合性評価の手順(概要)	
Step1	プロジェクトの選定について、ビジネス部門（営業部門および営業支援部門）により財務的評価等を実施のうえ、審査部門における通常の与信判断プロセスを経て、プロジェクトの金額等に応じ、部店長から取締役会までの承認者が取り組み可否を決定。
Step2	お客様のトランジション・ファイナンスの 4 要素について選定プロセスを踏まえて適合性を確認し、トランジション・ファイナンスの対象企業であること、もしくは個別プロジェクトとして適格であることを、適宜ビジネス部門と連携のうえ、経営企画部 CSV 推進室において評価。
Step3	必要に応じて外部評価機関が当社による適合性評価結果が適切であることを確認し、第三者評価（Letter of Conformance）を受領。
Step4	プロジェクトの決裁権限に応じ、部店長から取締役会までの承認者は、Step1～3 までのプロセスによって対象プロジェクトがトランジション・ファイナンスとして適格であると評価されていることを確認し、決裁する。当該決裁を通じ、適格プロジェクトとして最終的に決定を行う。

TL-3. 調達資金の管理：

- **リースファイナンス：**芙蓉総合リースは、調達資金はあらかじめ選定された個別のプロジェクトに全額紐付けています。調達資金と資産の紐付け、調達資金の充当状況は、財務部門、もしくは資金調達の主体が SPC の場合は SPC を管掌するビジネス部門または財務部門にて追跡・管理します。
- **リースバックファイナンス：**資金調達者がリースバックにより得た資金を適格プロジェクトに充当することの確認をします。
- 何れも調達資金の追跡管理は定期的に実施される内部監査の監査項目として組み込まれるなど、適切な内部統制を受ける計画です。
- 調達資金の充当までの間は、調達資金は現金または現金同等物にて管理します。
- 資金充当完了後も、資金使途の対象となるプロジェクトに当初の想定と異なる事象が発生した場合、当該事象及び未充当資金の発生状況を確認します。
- エクイティによる調達資金であっても上記と同様の管理を行います。

調達資金の追跡管理： *以下適宜グリーンをトランジション、資金調達者を Enabler として読み替える場合があります。

- グリーン・ファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他(具体的に記載):未充当資金は現金又は現金同等物にて管理される。調達資金は Enabler または資金調達者の両方で同様に管理される。

追加的な開示情報：

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当 | <input checked="" type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載)： |

TL-4. レポートニング：

- 芙蓉総合リースは、資金充当状況レポートニング及びインパクト・レポートニングを、調達資金の全額が適格プロジェクトに充当されるまで、守秘義務の観点も考慮した上で可能な限りウェブサイトにて開示（ローンの場合は貸付人のみに開示）します。
- なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、調達資金の充当後に計画に大きな影響を及ぼす状況の変化が生じた場合は、ウェブサイトにて速やかに開示（ローンの場合は貸付人のみに開示）する予定です。

<資金充当状況>

- 充当額
- 未充当額の残高
- 充当額のうちリファイナンスとして充当された残高又は割合

<環境改善効果> 例

- プロジェクト概要、進捗状況等
- 年間 GHG 排出削減量(t-CO₂/年等)

資金充当状況に関する報告事項:

*以下適宜グリーンをトランジション、資金調達者を Enabler として読み替える場合があります。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 関連する個々のローン単位 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載):ローンに応じて決定 |

報告される情報:

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金充当額 | <input type="checkbox"/> 資金総額のうちグリーン・ファイナンスにより充当された額割合 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

頻度:

- | | |
|---|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 (適格プロジェクトに全額充当されるまで) | <input type="checkbox"/> 半年ごと |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

インパクト・レポーティング(環境改善効果):

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 関連する個々のローン単位 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載):ローンに応じて決定 |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 | <input type="checkbox"/> 半年ごと |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

報告される情報(予測される効果、若しくは実行後):

- | | |
|--|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量/削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他の ESG 評価項目(具体的に記載): | プロジェクト概要、進捗状況等、ローンに応じて決定 |

開示方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に記載(統合報告書) | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートに記載 |
| <input type="checkbox"/> 臨時報告書に記載 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載):ウェブサイトにて公開。
(ローンの場合は貸付人のみに開示) |
| <input type="checkbox"/> レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載): | |



(3) 外部レビュー

芙蓉総合リースは、TL-2 で示す適合性評価結果に基づき実行する個別のトランジション・ファイナンスが、適切なトランジション・ファイナンスの実行であるという信頼性・透明性を確保するため、外部レビューを通じ、芙蓉総合リースの適合性評価が適切に完了していることを確認(外部評価機関から、適合に関する書面を取得)します。



評価結果

DNV は、フレームワークをはじめとする芙蓉総合リースより提供された関連文書・情報に基づく評価により、芙蓉総合リースが Enabler としてトランジション・ファイナンスを通じて実行するリースまたはリースバックを推進するために確立したフレームワークが、CTFH、CTFBG 及び GLP、GLGL で要求される基準を満たし、適格性を有していることを確認しました。DNV は、芙蓉総合リースが確立したフレームワークが、「クライメート・トランジション・ファイナンスが透明性と信頼性を持って実行されるために必要な投資の機会を提供する」というトランジション・ファイナンスの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2024 年 9 月 30 日

金留 正人

テクニカルレビューアー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

前田 直樹

代表取締役/SCPA シニアヴァイスプレジデント

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

塚崎 旭

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

橋本 寿士

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

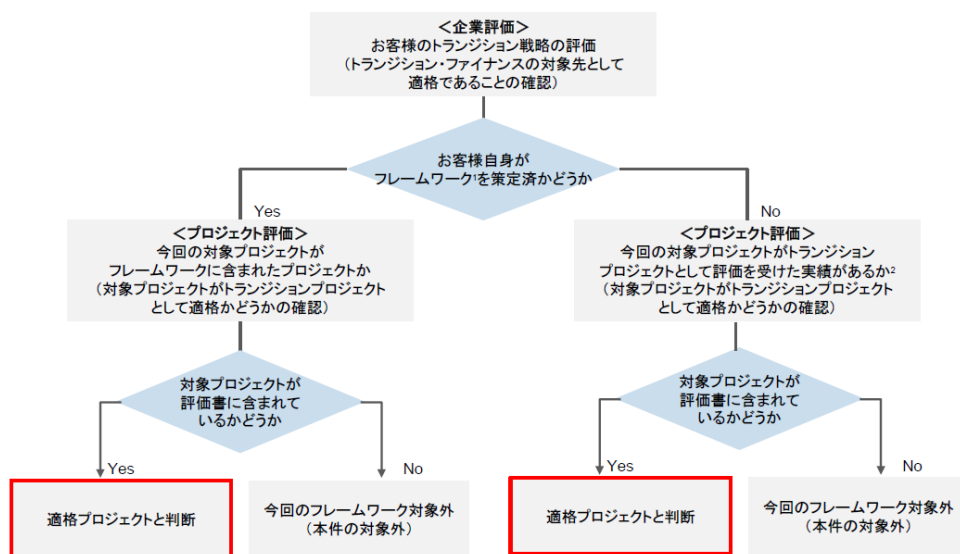
Responsibilities of the Management of the Fundraiser and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Fundraiser has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Fundraiser management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Fundraiser. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Fundraiser's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

スケジュール-1 芙蓉総合リース Enabler としてのトランジション・ファイナンス適合性評価プロセス (フレームワークより引用)

図-1 及び参考表は芙蓉総合リースが Enabler としてトランジション・ファイナンスを実行するために確立したフレームワークにおける資金調達者の評価・選定プロセスです。

DNV は、芙蓉総合リースの資金調達者の評価・選定プロセスが CTFH、CTFBG 及び GLP、GLGL で要求される基準を満たしており、適格性があることを確認しました。

参考表 (再掲) 芙蓉総合リース：プロジェクトの評価及び選定プロセス (フレームワークより引用)



注1: 第三者評価機関による評価を依頼しているトランジション・ファイナンスフレームワーク等
注2: 第三者評価機関が評価したトランジション・ポイント・ローン等

図-1 (再掲) 選定プロセス

適合性評価の手順(概要)	
Step1	プロジェクトの選定について、ビジネス部門（営業部門および営業支援部門）により財務的評価等を実施のうえ、審査部門における通常の与信判断プロセスを経て、プロジェクトの金額等に応じ、部店長から取締役会までの承認者が取り組み可否を決定。
Step2	お客さまのトランジション・ファイナンスの4要素について選定プロセスを踏まえて適合性を確認し、トランジション・ファイナンスの対象企業であること、もしくは個別プロジェクトとして適格であることを、適宜ビジネス部門と連携のうえ、経営企画部 CSV 推進室において評価。
Step3	必要に応じて外部評価機関が当社による適合性評価結果が適切であることを確認し、第三者評価（Letter of Conformance）を受領。
Step4	プロジェクトの決裁権限に応じ、部店長から取締役会までの承認者は、Step1～3までのプロセスによって対象プロジェクトがトランジション・ファイナンスとして適格であると評価されていることを確認し、決裁する。当該決裁を通じ、適格プロジェクトとして最終的に決定を行う。



スケジュール-2 Enablerとしてのグリーンローン原則（資金用途特定型トランジション・ローン） 適格性評価手順

下記 GLP-1 ~ GLP-4 は、グリーンローン原則(GLP)の各種基準を基に作成された DNV のグリーンローン適格性評価手順です(本文の TL-1~TL-4 に相当します)。

下記のチェックリスト(GLP-1~GLP-4)は、GLP の要求事項を基に、芙蓉総合リースの Enabler としての資金用途特定型のトランジションローン・フレームワーク適格性評価用に作成された DNV 評価手順です。評価作業における「関連文書確認」は Enabler 内部文書等が含まれ、芙蓉総合リースから DNV に対して適格性判断の証拠として提供されています。

なお、スケジュール-2 では慣行に従い GLP と表記していますが、ここでは、CTFH 及び CTFBG に基づく資金用途を特定するトランジション・ローンにおいて、トランジション・ローンなど資金用途を特定する資金調達の場合に参照する基準及び要求事項を含むため、適宜トランジションの文意に読み替えて下さい。

GLP-1 調達資金の用途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	トランジション・ローンの種類は資金用途特定型のトランジション・ローンとして定義される以下の種類の何れかに分類される。 ・(標準的) トランジション・ローン ・トランジション・レベニューローン ・トランジション・ローンローン ・その他	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、評価作業を通じトランジション・ファイナンスが以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 ・その他 →Enablerとして実施するトランジション・ファイナンスである。リース及びリースバックの原資を調達し、資金調達者へ供給することを目的としている。
1b	トランジション・ローン分類	トランジション・ローンにおいて肝要なのは、その調達資金がトランジション・ローンのために使われることであり、そのことは、証券またはローンに係る法的書類や契約書等に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、トランジション・ファイナンスが、フレームワーク及びスケジュール-1に記載されている通り、芙蓉総合リースがEnablerとして適合性評価を行う資金調達者の環境目標、トランジション戦略の実現に焦点を当てた幅広いトランジション・ファイナンスへの資金充当を目的としていることを確認した。 具体的には、スケジュール-1 に記載される芙蓉総合リースのトランジション・ファイナンス適合性評価手順を満たし、または追加的に外部評価機関から適合に関する書面を得た対象プロジェクトであり、トランジション・ファイナンスを通じて調達・供給した資金は、その全額が1つまたは複数の対象プロジェクトに充当されるものである。 DNV はアセスメントを通じ、芙蓉総合リースのフレームワーク及び内部プロセスに従って適切に適合性評価が行われたプロジェクトは、トランジション適格プロジェクトとして、真に環境上の利益をもたらすと結論付ける。
1c	環境面での便益	調達資金用途先となる全てのトランジション・ローンは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は	確認した文書類： - フレームワーク	DNVは、対象プロジェクトが、資金調達者のトランジション戦略に基づく目標に貢献する、1bで示す芙蓉総合リースによる適合性評価により評価された低・脱炭素化に

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
		資金調達者によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> - 各種関連文書 関係者へのインタビュー 	資するプロジェクトである。環境面での便益としてCO ₂ 排出量削減であり、資金調達者により定量的又は定性的に評価されている。 なお、トランジション・ファイナンス実行前、プロジェクトの開始前や秘匿情報・競争上の配慮が必要な場合は、プロジェクトの環境改善効果評価手法(算定方法)及び項目までの開示とし、年次レポートにてプロジェクトの特性に応じた指標又はCO ₂ 排出削減量として定量的又は定性的に評価・報告される予定であることを確認した(プロジェクトの特性により、定量的なCO排出削減量の評価が難しい場合は、プロジェクト概要などを実践可能な範囲にて報告する)。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、資金調達者は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー 	DNVは、芙蓉総合リースが、調達資金を全てスケジュール-1の評価・選定プロセスで適格性があると判断されたプロジェクト候補の、新規投資、既存の投資の何れか又は両方に使用する計画である。トランジション・ファイナンス実行前に、予め新規投資及び/又は既存の投資の別が明らかな場合は、ローン契約書等で開示予定である。また、未定の場合は、レポート(年次報告)を通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の金額を明らかにする予定であることを確認した。

GLP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>トランジション・ファイナンスを利用する Enabler 及び資金調達者はトランジション・ファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金調達が、対象となるプロジェクトが適格なトランジション・ローンであると判断するプロセス ・ トランジション・ファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成 ・ 環境面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNV は、Enabler がトランジション・ファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断するプロセス文書を有しており、その概要をフレームワークの中で明記していることを確認した。</p>
2b	資金調達者の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>トランジション・ローンプロセスに関して Enabler 及び資金調達者により公表される情報には、規準、認証に加え、トランジション・ファイナンス原資の貸し手や Enabler は、資金調達者のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>Enabler は、対象プロジェクトの選定の際、資金調達者のトランジション計画が CTF に整合していることに加え、実際に資金が供給されるプロジェクトについて、環境関連法令、条例及び諸規則の遵守、ライフサイクル全体もしくは各プロセスにおいて、CO₂削減等の環境改善効果が明確になっていることをフレームワーク又は外部評価機関の評価書にて確認している。</p> <p>また、Enabler は資金調達者が、事業の運営・実施にあたり、関係する各部において周辺環境の保全に取り組んでいることを確認するプロセス（フレームワーク又は評価書の確認）を有している。</p> <p>DNV は、Enabler へのアセスメントを通じて、Enabler が資金調達者の実施する対象プロジェクトについて、資金調達者のトランジション戦略、目標及び経路と整合していることを確認するプロセスを有していることを確認した。</p>

GLP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	トランジション・ローンによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、トランジション・ローンに係る資金調達者の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、資金調達者によって証明されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、芙蓉総合リースが、調達資金はあらかじめ選定された個別のプロジェクトに全額紐付けられ、専用口座にて調達資金と資産の紐付け、調達資金の充当状況は、当社財務部門、もしくは資金調達の主体がSPCの場合はSPCを管掌するビジネス部門または財務部門にて追跡・管理することを確認した。 また、リースバックファイナンスの場合は、資金調達者がリースバックにより得た資金を適格プロジェクトに充当することの確認する仕組みであることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	トランジション・ローンの弁済期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、トランジション・ファイナンスの実行から弁済までの期間、芙蓉総合リース及び資金調達者が3aに記載する手続き等で調達資金の残高を内部監査項目として定期的にレビューする計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるトランジション・ローンへの投資または支払いが未実施の場合は、資金調達者は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、Enablerの社内システム・専用口座及び関連する業務フローに基づき、未充当金の残高が逐次認識される仕組みであることを確認した。同様にEnablerが、資金調達者の未充当金の残高を確認する手順を有していることを確認した。DNVは、Enablerが未充当資金の残高を現金又は現金同等物で管理することをフレームワークの記載及び検証を通じて確認した。 また、未充当金の残高は、資金充当状況のレポートを通じて明らかにされる予定であることを確認した。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、資金調達者はトランジション・ファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 守秘義務や競争上の配慮 - 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNVは、調達資金が充当されるまでの間、Enabler、または必要な場合には資金調達者がトランジション・ファイナンスの年次報告を実施し、資金充当状況、資金が充当されたプロジェクト又は環境改善効果に関する情報を開示することを確認した。環境改善効果は、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、下記の何れか又は全てを開示することを確認した。レポートニングはウェブサイト上で公表される予定である。</p> <p><資金充当状況></p> <ul style="list-style-type: none"> • 充当額 • 未充当額の残高 • 充当額のうちファイナンスとして充当された残高又は割合 <p><環境改善効果> 例</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロジェクト概要、進捗状況等 • 年間 GHG 排出削減量(t-CO₂e/年等)